

# 持続可能なまちをつくるために

THE YOSANO FUTURE PRESS

## 与謝野 みらい 新聞 第二号

与謝野みらい新聞 第二号  
2017年3月24日 発行  
発行所：与謝野町役場  
編集：企画財政課  
・総合計画策定委員会  
ワーキングチーム

- 1 住民みんなで描く未来
- 2,3 ファシリテーション研修
- 4 町民にとっての総合計画  
4コマ漫画  
まちづくりアンケート



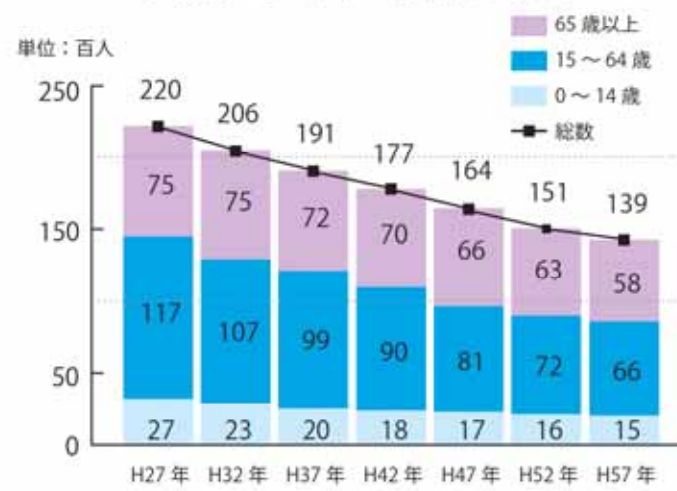
### 住民みんなが描く未来

#### 人口減、少子高齢化の中、今なにをする

平成18年3月1日に与謝野町が誕生して11年が経過しました。与謝野町の人口は、平成17年の国勢調査で2万4906人、先般発表された平成27年調査では2万1834人で、この10年間で実に3072人減少しています。人口増減に影響を与える要因は、出生と死亡による「自然増減」と、転入と転出による「社会増減」があり、与謝野町では毎年およそ300人の町民が減少しているのが現実です。

国立社会保障人口問題研究所が平成25年に行った推計によると、与謝野町は今後も人口が減り続け、20年後には1万6407人になると予想され、15〜64歳の生産年齢人口の割合は減る一方で、65歳以上の高齢人口の割合が今後さらに増加し、地域の高齢化がより

与謝野町の人口構成と予測



一層進むと予想されています。自然減・社会減の傾向が変わらない限りこの予想は現実となります。また、今年産まれた子どもが、突然20歳にはならないため、年齢構成が突然変わることはありません。それが与謝野町の現実です。

### 与謝野の厳しい見通し

人口減少等による影響はどのようなものがあるのか。

- ▼労働力人口の減少や商品需要の減少による経済的影響
- ▼医療・介護等の分野や自治体、祭事での人材不足
- ▼生活様式の変化による世帯規模の縮小、空き家の増加
- ▼水、電気、ガス、交通、情報・通信等の需要減による社会資本への影響
- ▼高齢者が安心して生活を送れる社会実現のための社会保障負担等の増加など

町行政の財政事情は、市町村合併の特例が終了することにより国からの地方交付税が段階的に減少することに加え、人口減少に伴い町税収入が減少します。現行の行政サービスを維持するには、一定の支出が必要で、毎年度、町の貯金である基金を取り崩さなければ

与謝野町の財政予測



予算を組むことができず、このままでは平成34年度に基金が枯渇する見込みであり、今後、町の財政規模の縮小は避けて通ることができないのが現実です。

### みんなで描く地域の未来

この現実を直視し、社会の変化に合わせた持続可能な地域づくりはどのようにすればよいか。現在、与謝野町では、まちの将来像を示す「第2次与謝野町総合計画」の策定を「みんなでつくる」「みらい志向でつくる」「みえるまちをつくる」をコンセプトに、若手職員が中心となり準備を進めています。

手順としては、住民の皆さんの想いを集め、住民の皆さんと職員とで地域の未来を描いていきます。価値観の違いや多様な生き方を認め合う現代において、町行政と自治区や学校、地域団体（組合、協会、協議会等）のほかに与謝野町に住む皆さんの「総動」によって、まちづくりを進めることが重要であり、みんなで地域の未来を描く「地域づくり」が必要であると考えています。

これから10年後、20年後の自分はどうしているのでしょうか。その時、与謝野町はどんなまちになっているのが理想でしょうか。皆さんの想いを将来に繋ぐため、多くの町民の皆さんの計画策定への参加が望まれます。今一度、町の未来を見つめてみませんか。

※総動：多様な複数の主体による協働



## わたしたち町民にとっての総合計画

あだち つぶさに  
足立 経彦  
・与謝野町総合計画審議会 副会長



総合計画とは、簡単にいうと、わたしたち町民の暮らし全てにおいての将来像を示すものです。「日常の暮らしに関わること」「安心・安全に関わること」「教育・子育てに関わること」「医療・福祉に関わること」「行政とわたしたちの役割に関わること」「町資源の保全に関わること」、これらを網羅した将来像の実現に向けて、それぞれに必要な施策をつくり、実施していく、いわゆる総花的なものです。

「総花的」ということは、わたしたちやまだ見ぬ子孫など、みんなに関わることを万遍なく考えていくということです。今回の第2次総合計画は、①「みえるまちのためにつくる」②「みらい志向でつくる」③「みんなでつくる」という3つの考え方で作成をしています。

- ①「みえるまち」を実現するためには、わたしたちが計画を知ることが必要ですが、興味もないことを知ろうとすることは苦痛ですね。しかし、将来や日頃の心配事がないわけではありません。
- ②「みらい志向」といっても、今を精一杯生きているわたしたちにとって何十年も先のことを考えることは難しいですね。「今を何とかしてよ」というのが本音です。でも、子どもたちの顔を見ていると良いまちになってほしいと願う気持ちはあります。
- ③「みんなで」といっても、「どこで?」「どうするの?」「そんな時間余裕もないよ。」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、身近に意見を届ける方法はありますし、自分たちでもつくれます。

これまでの総合計画は、審議会のメンバーと行政が計画を作成し、行政が施策を実施し、実施される施策の中でわたしたちが暮らしてきました。わたしたちの役割は、できたものを「良い」「悪い」と評価することでしょうか。わたしたちの未来をつくるのは、行政という組織体ではなく、わたしたちです。

わたしたちが、このまちに「何をしてもらうか」ではなく「このまちに何が出来るか」「このまちがどうなれば自分の力を発揮できるか」といった視点で考え、その考え方を総合計画に反映すれば、わたしたちの理想に一つ近づけるはず。働いている方、事業を営んでいる方、専業主婦や子育て中の方、一人暮らしの方、療養中で自宅から出られない方、小・中学生、高校生、行政職員、与謝野町で働く町外の方。それぞれの立場や年齢を超えて、与謝野に関わりのある方、総参加で与謝野のみらいを作っていきます。

※自治体によっては、コンサルタント会社等に依頼する場合もあります

### 町の取り組みについてのご意見は下記方法でお寄せ下さい

- 与謝野町ホームページ (お問い合わせフォーム)
- 町政懇談会
- 町長とのランチミーティング (申込TEL: 0772-43-9015)
- 手紙による投書 (各庁舎設置の意見箱)
- FAXによる投書 (FAX: 0772-46-4630)

※個人のみならずPTAなど団体意見をまとめたのご意見でも結構です

(文責：足立経彦 編集：企画財政課)

## まちづくりアンケート結果の公表

第2次与謝野町総合計画の策定にあたり、これまでのまちづくりの評価や今後のまちづくりについて、住民の皆さんの意向を計画に反映するため、無作為に選んだ2,000人の町民を対象にアンケート調査を実施したところ、687名の方から回答をいただきました。

いただきました回答は「第2次与謝野町総合計画策定に係るまちづくりアンケート報告書」として、統計的に分析し、全ての自由記述のご意見を整理し、町ホームページおよび役場各庁舎でご覧いただけますのでご覧ください。アンケートへご回答いただいた皆さん、ご協力いただきありがとうございました。

## 新年度からワーキングチームの職員が伺います

昨年10月14日「与謝野町まちづくりセミナー」からスタートした第2次与謝野町総合計画策定の取り組みにつきましては、与謝野町総合計画審議会(会長：杉岡秀紀)と町職員で構成する総合計画策定委員会およびワーキングチームを中心に、策定方針の確認や第1次総合計画の振り返り作業、未来志向の考え方などについて検討を進めてきました。

新年度からは、33人のワーキングチームの職員が住民の皆さんのところへ出向き、まちの未来や現在の課題、そのためにできることなどについて、直接想いをお聞かせいただく予定としています。住民の皆さんの想いを反映したまちづくりを推進するため、一緒に総合計画を策定しましょう。



### 興味を持っていたファシリテーション 木村 有紀子さん

最近、地元の会議に参加するようになり、自分が進行役の際に「上手に会議が進められればいいな」と考えている時に研修への誘いがありました。参加者の多くが役場職員さんで少し緊張しましたが、実は職員の方々も普段町民に対して緊張をされる方もいると挨拶の中で言っておられ安心しました。

私は与謝野町が好きで、更に自分の住んでいる温江が大好きです。町のみなさんがこの町を「何とか」と言っておられるのをよく聞きます。私の「何とか」は大江山と山の家。大江山を訪れる登山客の6割以上が大江山から登られると聞き、悲しかったです。もっとたくさんの方に温江から登ってもらい、山の家も利用してもらい、更にちりめん街道や与謝野町のステキなところをたくさん見てもらいたいと思ひ、私にも少しは出来るのではないかといつも夢を描いています。それを実行するには私一人のチカラではできないので、みなさんにも手伝ってもらわないとできません。

これからも温江の方々とも何度も会議が必要となってきます。今回学んだファシリテーションをさらに勉強し、ステキな意見が出る会議、ステキな町づくり、ステキな温江づくりにチカラを入れていきたいと思っています。

今後もこのような研修がある際は、ぜひ参加させていただきたいと思っています。



### 私にできることは何かな? 植田 友香理さん

私は、三人の子宝と、夫・夫の両親の三世帯で暮らしています。父の代からの家業である建築の仕事(家作りを中心としたモノ作り)を生業としています。中でも私が担当するコミュニティスペース『スタジオキ』の企画運営は、現在のまちづくりや子育て支援に関わる大きなきっかけとなっています。

夫が現在の『スタジオキ』を建築した時から、「私に出来ることは何かな?」と、企画運営に関わり、「地域に貢献出来ることって何だろう?」と、出来ることを日々実践して来たように思います。そんな『スタジオキ』の運営を通じて、子育て支援やまちづくり地域づくりに関わるきっかけをたくさん頂いています。ありがとうございます。今回も若手の与謝野町職員の研修に参加させて戴き、一緒に学べたことで、理解が深まり協力できるキャバが広がったように感じています。ファシリテーションの大切なポイントをグループ体験を通じて学べたことで、うまく行かなかった会議のパターンや、次にできる準備、本音で話し合える意味や意義を理屈だけでなく体で感じられたのは、非常にありがたく感じています。あとは、忘れないうちに実践し、学び続けることでしょうか(笑)

これから私に出来ることは、命のリレーをつなげていくことをイメージしながら、次の世界を作っていく子どもたちに、ステキな与謝野町を残していくこと。沢山のひとたちと関わりながら考えて、協力し合って楽しく実践していくことだと思っています。



### みんなで考える機会に 坂根 義隆さん

はじめてこのような研修会に参加させていただきました。仕事柄、会議やミーティング等の雰囲気には慣れておらず、私自身どう進めて良いか戸惑いもありましたが、今後の会議等に活かせればと思ひ参加しました。

岩屋は平成28年3月で岩屋小学校、岩屋保育所と相次いで閉鎖になり、若者が減り、高齢化が進んでいます。私は今、岩屋で『雲岩創成塾』の代表をしており、雲岩公園を拠点にしたイベントを地域の若者としました。岩屋の明かりがどんどん失われるのを指を唾えて見ているだけではいけないと、みんなで会議をして何か面白い事が出来ないかと、この塾を結成しました。明かりが無いなら明かりを灯そうと、岩屋のシンボルでもある雲岩公園のつつじ、もみじ、くもいわなどをライトアップし、たくさんの方に足を運んでもらいました。

『雲岩創成塾』のメンバーは全てボランティアです。みんな初めての事で、進め方などわからない事ばかりです。今回の町の職員と住民との会議を経験し、「みんなで町が良くなる事を考える機会」を持つことの大切さを感じました。

『雲岩創成塾』は、今年も楽しく活動します。みなさん、岩屋、雲岩公園へぜひお越しください。

## ファシリテーション 研修を実施しました

### ◎ 場作りのノウハウ

総合計画策定に多くの住民のみなさんに参画いただくためには、ワーキングチーム(町職員)が地域へ出て住民のみなさんの想いを集めることが重要となります。そこで意見を出し合う会議などの場では、活発に意見出しがおこなえる「話しやすい雰囲気づくり(心地よい場づくり)」が大切な事から、2月4日(土)知遊館でファシリテーションについて学ぶ研修会をおこないました。この研修では、専門家から「心地よい場づくりのノウハウ」を直接学べる機会であったため、住民の方も参加できるオープンな講座として開放したところ、9名の方が参加されました。

特定非営利活動法人『場とつながりラボ home's vij』の篠原幸子さんを講師にお招きし、会議の仕切り方から進行のコツやスムーズなコミュニケーションの仕方について、参加いただいた住民さんとともにワーキングチームメンバーが、コミュニケーションをとりながら楽しく学びました。

本号では、研修に参加いただきました住民さん(6名)からお寄せいただいた感想をご紹介します。



### ◎ みんなが誇れる町へ 小室 良太さん

私がUターンで地元に戻って来て以来、この町で自分の居場所を見つけるために、大学の頃から興味があった、まちづくりや地域興しに関わるワークショップなどに参加するようになりました。自らが場のセッティングをすることも増えて来たため、ファシリテーション研修へ飛び入りで参加させて頂きました。

参加して学んだ事の中に、「チェックイン」というものがありました。今の正直な気持ちや気になっていることをありのまま話すことによって、参加者にとって「自身が受け入れられる安心安全の場をつくる」という、私が参加したこれまでの会議などとは違った空気で始まったと思います。

今回の研修で、会議前の心構え、会議中の注意点など多くの事を知ることができ、まちづくりについて、仕事がないなら、仕事になるように行動するしかない、人が少ないなら、人を受け入れられる環境を目指し、仕事も仲間もいる町にしていく必要を改めて思うようになりました。

町に住んでいるそれぞれの方が、町のあり方や将来について考え、町内外の会議やミーティングにみなさんも参加して頂くことで、今まで以上に実のある会議にし「素晴らしい町」と、みんなが誇れる与謝野町になればと思います。



### ◎ この町と、この町に住む人たちが好き 三田 智子さん

京都市からUターンして10年。「何もない町」から私の中で大きく変わったきっかけは、「人」との出会いでした。「素敵な町じゃないですか。見えてないだけでしょ。」と言われても、なかなかその良さに気づけなくて、海の京都与謝野町実践者会議の委員として会議に出席するのも辛く、悩んでいたこともあり。そんなとき、会議に出席している女性たちで「もっと女性の視点で楽しく町づくりに関わろう」と、活動し始めたのが『ちりめん街道女子会』でした。この町の課題を地域のひととともに考え学び、ひとりではできないことも仲間と一緒にチカラにし、地域内外の多くのひとと知り合い、交流の輪が広がる。人との出会いでこの町の良さに気づき、私にとって大きな刺激となり原動力となりました。

「町づくりは人づくりから」地域活動に携わるようになった当初から感じる事です。人と人が交流し共感しあうと、創造するエネルギーが生まれる。一緒に悩み考えながら創っていくときのワクワクした気持ち、カタチになったときのみんなの笑顔や喜び。「女性が元氣だと、町も元氣になる」活動を通して感じる事です。

当たり前のように目の前にある自然や風景、歴史や文化、生業や暮らす人たち。でも、見方を少し変えるだけで、関わる人を少し増やすだけで、見えてくるものは違ってきます。厳しい現実や課題と向き合いながら、「自分にできることから少しずつお手伝いしよう」と、みんながチカラを出し合うことが求められていると思います。

今の町づくりが子どもたちの夢や希望の持てる未来に繋がるように。



### ◎ ファシリテーション研修を終えて 江原 義典さん

2月4日「ファシリテーション研修会」を受講しました。この研修会の受講の動機は、最近ワークショップ形式の会議に出席する機会が多く、その中でファシリテーターの役割の大切さを実感したからです。出席する会議で一参加者としてだけではなく、中身の濃い議論につながるのではないかと考えたからです。また、所属している会が会員減少等で衰退化してきており、会の活性化のための参考になるのではと思ったのも理由の一つでした。

このような研修を受けるのは初めてで、一言でいえば「難しかった」というのが率直な感想です。しかし、それと同時に朝10時から夕方5時までというかなりハードな研修会でありながら、なぜか「面白かった」「楽しかった」という思いが強く残っています。研修を終えた今、「解りましたか?」と問われると「う〜ん…」と首をかき上げるような現状ですが、今までとは少し感じ方が変わったように思います。今後どこまで今回の研修が活かせるか分かりませんが、会議のみならず様々な場面において新たな視点から取り組んでいきたいと思っています。

貴重な体験をさせていただいた、講師の先生に感謝申し上げますとともに、町役場の事務局の方々に御礼申し上げます。

